

新型コミュニティマルチキャスト放送を活用した 「カレッジ・ワンセグ放送局」の提案

2011年2月4日

t v k (テレビ神奈川)



ヨコハマ開放区

「北仲スクール」拠点のカレッジワンセグ放送局

- “大学”というひとくくりのエリアを対象とした小さな放送局
 - モデル事業として成功例をつくり、他の大学や同じような挟域エリアを対象とした放送局を増やし、それらとの連携をめざすもの
 - 「北仲スクール」は開かれた大学 ⇒ “地域との連携”も大きな柱

北仲スクール(横浜文化創造都市スクール)

横浜国立大学(代表校)・横浜市立大学・東京藝術大学・神奈川大学・関東学院大学・東海大学・京都精華大学の7大学によるサテライトスクール。「横浜文化創造都市スクールを核とした都市デザイン／都市文化の担い手事業」(文部科学省「平成21年度大学教育のための戦略的大学連携支援プログラム」)の採択をうけ、「北仲ブリック」(1926年竣工の旧帝蚕倉庫本社ビル)内に開設(横浜市中区北仲通5丁目57-2)。

番組のおもしろさとビジネスモデル

- ローコストでコンテンツ作り（調達）
 - テレビでの“放送”は門戸が狭く、ハードルが高い ⇒ ex) メジャーリーグ
 - ハードルを下げることで、コンテンツが身近なものに…
 - みんなで作る、みんなを楽しむ ⇒ 市民参加型の放送局
 - (例) 「北仲スクール」の景観アーカイブ論
⇒ 市中に埋もれた映像コンテンツを発掘し、アーカイブ

【都市デザイン基礎科目】景観アーカイブ論

講師：水島久光（東海大学開講授業）

▽東海大学生による発表：過去のフィルムを探しています

～ 過去のフィルムを通して、日本の忘れさられた姿を見る～

神奈川地域にある民家・企業に眠っている9.5mm、16mm、8mmなどのフィルムを探し出します。特に戦前の一時期(1926-38年頃)に日本で全国的に流行し、マスメディアとは全く異なる映像文化を人々にもたらしたと言われているフランス・パテ社の小型撮影機とフィルム(9.5mm)を探しています。

番組のおもしろさとビジネスモデル

- 課題：ビジネスモデルの確立
 - － 広告モデル（番組と番組の間にCM）
 - － 協賛モデル（企業の社会貢献の一環）
- 広告モデル
 - － tvkではマルチウィンドウ戦略を展開
 - － これに、カレッジワンセグ放送局が加わる
 - － これらの情報発信メディアを連携しメディアとしての価値向上

↓

広告効果の向上

tvkが持つ 情報発信メディア

- ① デジタル放送
- ② データ放送
- ③ ワンセグ放送
- ④ ワンセグ・データ放送
- ⑤ ホームページ
- ⑥ 公式携帯サイト(3キャリア)
- ⑦ tvkヨコハマネットTV
(動画の時間軸配信サイト)
- ⑧ tvk-bb
(動画のオンデマンド配信サイト)
- ⑨ 横浜ストリーム
ライブサイト
- ⑩ 横浜ストリーム
デジタルサイネージ

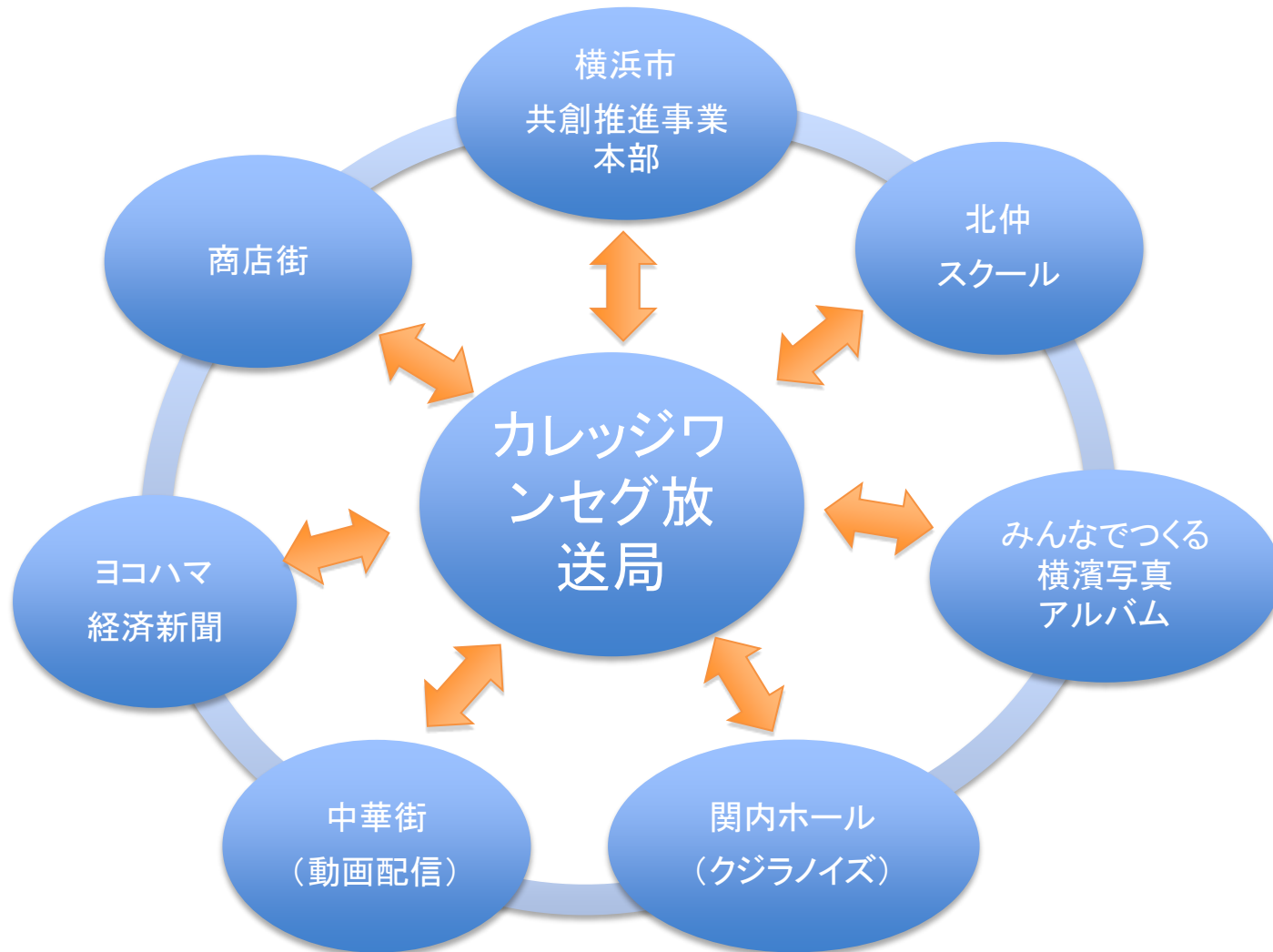
番組のおもしろさとビジネスモデル

- 協賛モデル
 - － 寄付講座のようなもの
 - － 「番組」として繰り返し放送
- ワンソース・マルチユース
 - － カレッジワンセグ放送局の番組を他のさまざまなメディアでも活用
 - － 気づき
 - 「こんな番組をやっているのか」
 - 「ワンセグでも見られるんだね」
 - 「今度はインターネットで
見てみよう」

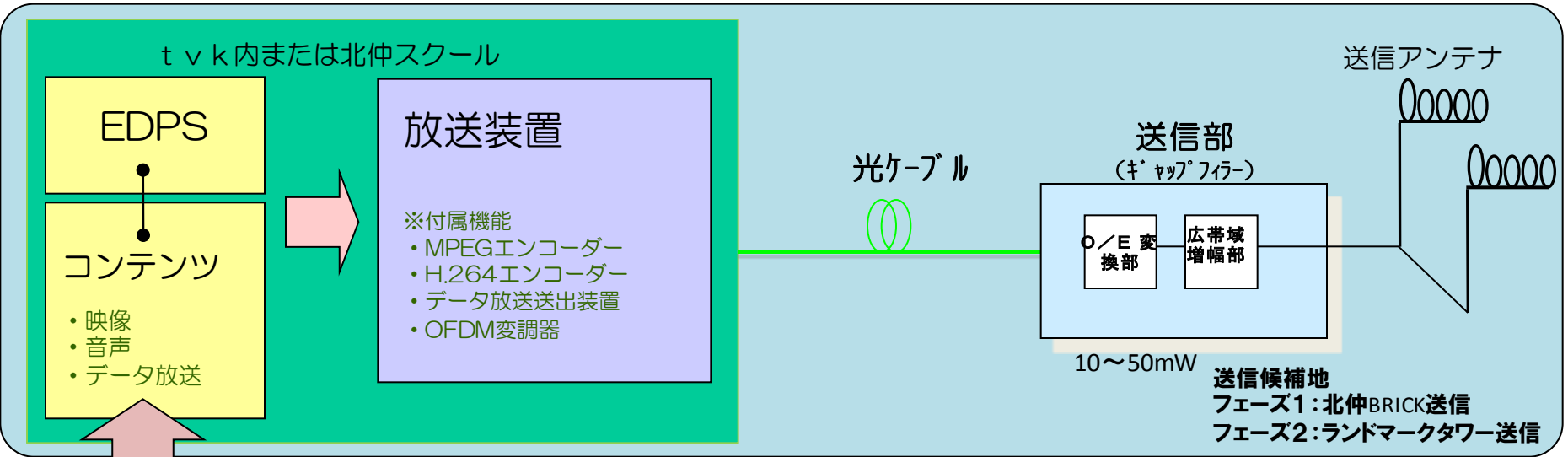
tvkが持つ 情報発信メディア

- ① デジタル放送
- ② データ放送
- ③ ワンセグ放送
- ④ ワンセグ・データ放送
- ⑤ ホームページ
- ⑥ 公式携帯サイト(3キャリア)
- ⑦ tvkヨコハマネットTV
(動画の時間軸配信サイト)
- ⑧ tvk-bb
(動画のオンデマンド配信
サイト)
- ⑨ 横浜ストリーム
ライブサイト
- ⑩ 横浜ストリーム
デジタルサイネージ

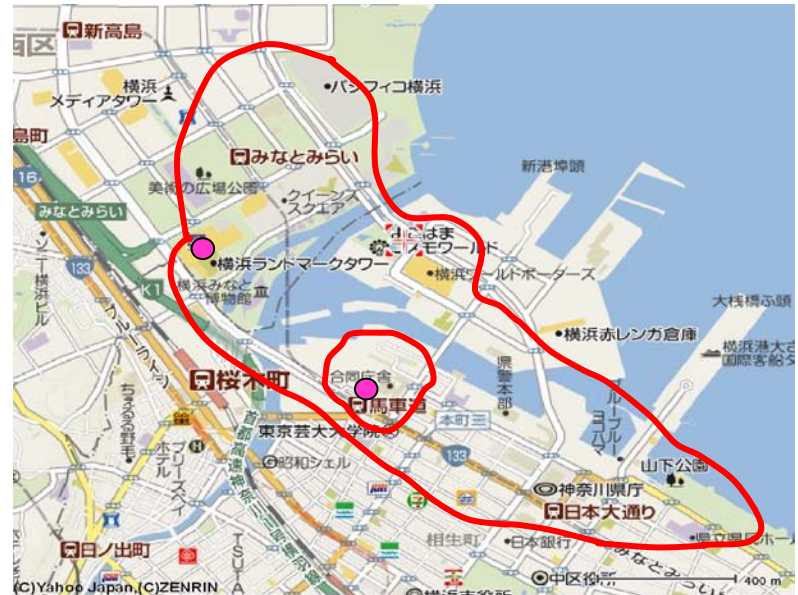
さまざまな形の連携



放送の仕組み（実験システムとエリアのイメージ）



- ▶tvk：地域メディアコンテンツ
- ▶北仲スクール：教育、文化、芸術コンテンツ
- ▶横浜市：市民活動、観光、商業振興コンテンツ
- ▶NPO・一般市民：地域コミュニティーコンテンツ
- ▶その他：イベント、災害時等コンテンツ



技術的検証

(先導的課題：多チャンネルサービスの実証実験)

● 検証内容

- 限られた伝送帯域6MHz幅において、地上デジタルテレビ放送のISDB-T技術により、数多くの動画映像やラジオ音声などの放送サービスを同時提供することが可能であるか、技術的パラメータの組合せにより変調方式、符号化率などを変えサービスの実現性検証を行うほか、出来る限り簡易なシステム構成で実現するための研究・開発を行う。
- この多チャンネルサービスが実現できることにより、同一映像による複数言語放送や複数講座のカレッジラジオ放送など多様な放送サービスや充実したインフォメーションなどが可能となる。
- これにより、カレッジワンセグ放送のみに留まらず地域多言語放送への活用（横浜・中華街など）や周波数帯域内の有効利用できるモデル検証を行う。

● 技術検証イメージ

